

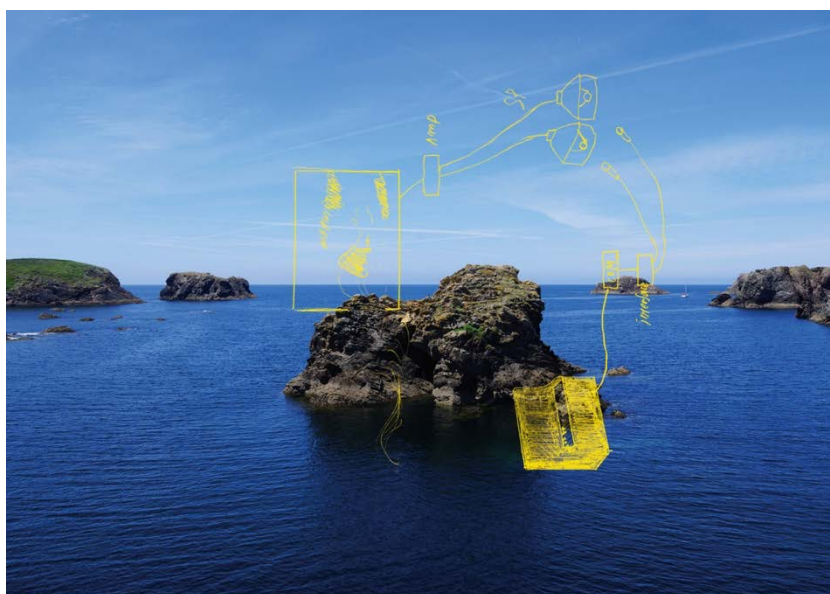
報道各位

2024年7月17日

公益財団法人石橋財団 アーティゾン美術館

ジャム・セッション 石橋財団コレクション×毛利悠子— ピュシスについて

2024年11月2日[土]-2025年2月9日[日]



毛利悠子《Piano Solo: Belle-Île》のためのスケッチ、2024年

公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館（館長 石橋 寛）は、「ジャム・セッション 石橋財団コレクション×毛利悠子—ピュシスについて」展を開催します。

アーティゾン美術館では、2020年の開館以来、石橋財団コレクションとアーティストとの共演、「ジャム・セッション」展を毎年開催しています。第5回目となる本展は、国際的なアートシーンで注目を集めるアーティスト、毛利悠子を迎えます。

毛利は、主にインスタレーションや彫刻を通じて、磁力や電流、空気や埃、水や温度といった、ある特定の空間が潜在的に有する流れや変化する事象に形を与え、立ち会った人々の新たな知覚の回路を開く試みを行っています。

本展タイトルに含まれる「ピュシス」は、通例「自然」あるいは「本性」と訳される古代ギリシア語です。今日の哲学にまで至る「万物の始原＝原理とはなにか」という問いを生み出した初期ギリシア哲学では、「ピュシス」が中心的考察対象となっていました。当時の著作は断片でしか残されていませんが、『ピュシス＝自然について』と後世に名称を与えられ、生成、変化、消滅といった運動に本性を見いだす哲学者たちの思索が伝えられています。絶えず変化するみずみずしい動静として世界を捉える彼らの姿勢は、毛利のそれと重ねてみるすることができます。

毛利の国内初大規模展覧会である本展では、新・旧作品とともに、作家の視点から選ばれた石橋財団コレクションと並べることで、ここでしか体感できない微細な音や動きで満たされた静謐でいて有機的な空間に来場者をいざないます。

【見どころ】

1) 現代日本を代表するアーティストの国内初となる大規模展



毛利悠子は、彫刻、音、動きなどを組み合わせることで、空間にたどる「見えない力/事象」に形を与え、わたしたちに感受可能なものに変換する作品で知られています。近年数多くの国際展に参加し、世界のアートシーンで注目を集める毛利は、現代美術のオリンピックと呼ばれる「ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展」、第60回（2024年4月20日ー11月24日）における日本館展示に選出されました。そんな彼女の活動を、アーティゾン美術館の空間に合わせてアップデートする既発表作品と、コレクション作品からインスピレーションを得た新作を交えて、国内では初となる大規模なスケールで紹介します。

*本展は第60回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館展示の帰国展ではありません。

毛利悠子《Calls》2013年一、「MEDIA/ART KITCHEN—ユーモアと遊びの政治学」展示風景、2014年、国際芸術センター青森 写真：Kuniya Oyamada

2) 時代を超えて交わる自然へのまなざし：「動き」や「音」を通じて



2020年の開館以来、現代アーティストとコレクション作品の共演を届けてきた「ジャム・セッション」展。「ジャム・セッション」は、元来ミュージシャンが集まって即興的な演奏を行うことを意味していますが、今回迎える毛利悠子は、デビュー当時から類語の「インプロヴィゼーション（即興演奏）」を創作におけるキーワードのひとつとしてきました。構成/作曲された音楽から逸脱していく現代/実験音楽の「エラー」や「フィードバック」も毛利の作品空間には組み込まれています。そんな音楽的モチーフを通して振幅やゆらぎ、変動や不確定さを重視する作家の観点から選ばれた近代の作品群は、「動き」や「音」をともなった毛利作品と併存することで、これまで見えてこなかった表情を見せ始めます。クロード・モネ、アンリ・マティス、パウル・クレー、ジョルジュ・ブラック、マルセル・デュシャン、ジョゼフ・コーネル、藤島武二といった作家たちと毛利の、時代を超えた創造性の交わりをお見せします。

毛利悠子《めくる装置、3つのヴェール》2018年一、「キュレトリアル・スタディズ12：泉/Fountain 1917-2017 Case5：散種 by 毛利悠子」展示風景、2018年、京都国立近代美術館 写真：Yuki Moriya

3) 切迫する環境問題への「アート思考」



毛利悠子《Pleated Image》2016年—

SDGs（2015年の国連総会で採択された、2030年までに達成されるべき持続可能な開発目標）が多くの企業や行政で共有されている現在は、翻って言えば、我々が深刻な地球環境の危機に直面していることを意味しています。大量生産・大量消費を是とし、「コントロール/制御」を軸に効率重視で発展してきた産業を中心とする社会がもたらす複合的な環境問題に対して、これまでとは異なった思考法が要請されています。

また、明確なゴール設定や効率性を重視しない、まごつきやリフレーミングといった迂回路に導く創造性を培う「アート思考」が、近年ビジネスや教育の現場で注目されています。

「エラー/不制御」や即興的な展開、磁力や電流、空気や埃、水や温度といった微細な環境の要素を作品に取り入れる毛利の姿勢は、大きすぎあるいは小さすぎて見えない流れ/変化に対する私たちの感度を高め、環境問題とその課題への向き合い方のささやかなヒントとなるでしょう。



毛利悠子

1980年神奈川県生まれ。現在は東京を拠点に活動。2006年に東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻を修了。主な個展に第60回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館（2024年）、カムデン・アーツ・センター（2018年）、十和田市現代美術館（2018年）など。そのほか第14回光州ビエンナーレ（2023年）、第23回シドニー・ビエンナーレ（2022年）、第34回サンパウロ・ビエンナーレ（2021年）などに参加。

写真：kugeyasuhide

【関連プログラム】

土曜講座「アーティスト・トーク」

*各回とも逐次通訳あり

*事前申込制

会場：アーティゾン美術館 3階 レクチャールーム

2024年11月2日（土）10:30-12:00（10:00開場）

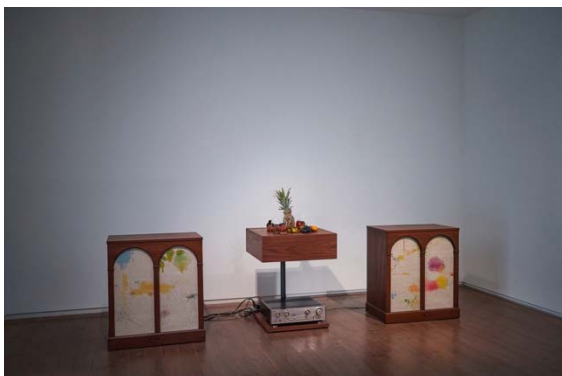
毛利悠子 × イ・スッキョン（英国マンチェスター大学ウィットワース美術館館長、第60回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館キュレーター）

2024年11月2日（土）14:00-15:30（13:30開場）

毛利悠子 × ヴィセンテ・トドリ（ピレリ・ハンガービコッカ芸術監督）

*詳細は当館ウェブサイトにてお知らせします。<https://www.artizon.museum/program>

【主な出品作品】



毛利悠子《Decomposition》2021年一、「Neue Fruchtige Tanzmusik」展示風景、2022年、Yutaka Kikutake Gallery 写真：kugeyasuhide



ジョルジュ・ブラック《梨と桃》1924年、石橋財団アーティゾン美術館 © ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2024 C4674 ★



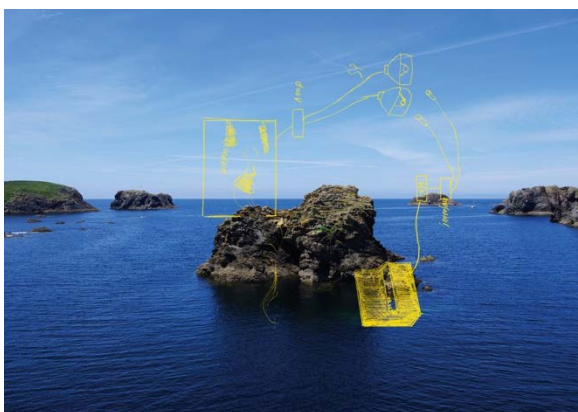
左：毛利悠子《Calls》2013年一、「Inter-Resonance: Inter-Organics」展示風景、2019-20年、シャルジャ・アート・ファンデーション 写真：Shanavas Jamaluddin

右：コンスタンティン・ブランクーシ《接吻》1907-10年、石橋財団アーティゾン美術館

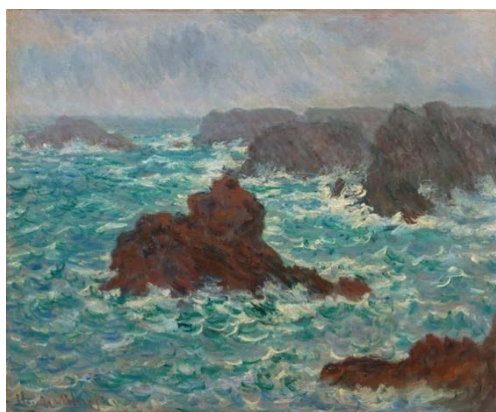


左：毛利悠子《I/O》2011年一、「第14回光州ビエンナーレ」展示風景、2023年、ホランガシナム・アート・ポリゴン 写真：glimworkers

右：パウル・クレア《数学的なヴィジョン》1923年、石橋財団アーティゾン美術館



毛利悠子《Piano Solo: Belle-Île》のためのスケッチ、2024年



クロード・モネ《雨のペリール》1886年、石橋財団アーティゾン美術館

【開催概要】

展覧会名： ジャム・セッション 石橋財団コレクション×毛利悠子—ピュシスについて

*展覧会タイトルを省略する場合【毛利悠子—ピュシスについて】または【ジャム・セッション 毛利悠子】と記載ください。

主催： 公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館

会場： アーティゾン美術館 6階展示室

会期： 2024年11月2日[土]–2025年2月9日[日]

開館時間： 10:00–18:00（毎週金曜日は20:00まで）*入館は閉館の30分前まで

休館日： 月曜日（11月4日、1月13日は開館）、11月5日、12月28日–1月3日、1月14日

入館料（税込）： 日時指定予約制（2024年9月3日[火]よりウェブ予約開始）

ウェブ予約チケット1,200円、窓口販売チケット1,500円、学生無料（要ウェブ予約）

*予約枠に空きがあれば、美術館窓口でもチケットをご購入いただけます。

*中学生以下の方はウェブ予約不要です。

*この料金で同時開催の展覧会を全てご覧いただけます。

担当学芸員： 内海潤也、田所夏子

同時開催

ひとを描く（5階展示室）

石橋財団コレクション選 特集コーナー展示 マティスのアトリエ（4階展示室）

アーティゾン美術館 〒104-0031 東京都中央区京橋 1-7-2

Tel: 国内 050-5541-8600 海外 047-316-2772（ハローダイヤル） www.artizon.museum

アクセス： JR 東京駅（八重洲中央口）、東京メトロ銀座線・京橋駅（6番、7番出口）、東京メトロ・銀座線/東西線/都営浅草線・日本橋駅（B1出口）から徒歩5分

【広報用図版】

1点のみ掲載の場合は1ページに掲載の図版をお使いください。

掲載時には必ずクレジットをご記載ください。また、文字載せやトリミングはご遠慮ください。

■図版は、下記サイトからダウンロードしていただけます。

<https://www.artpr.jp/artizon/mohriyuko2024>

■★のついた作品は著作権保護期間中です。ご利用については下記にご相談ください。



2024年11月にオープンする戸田建設株式会社の本社ビル、TODA BUILDINGでも、毛利悠子の作品をご覧いただけます。毛利は、会社によるアート事業「ART POWER KYOBASHI」の一環として展開されるPUBLIC ART PROGRAM Vol.1に4人のアーティストの一人として選ばれて参加しています。ぜひ本展とあわせてご覧ください。 <https://www.apk.todabuilding.com/>

本プレスリリースについてのお問合せ先
アーティゾン美術館 広報課 松浦・小川・宮武

*一般の方のお問合せ先は050-5541-8600（ハローダイヤル）です。

E-mail: publicity@artizon.jp

TEL: 03-6263-0132（広報課直通・誌面への掲載はご遠慮ください。）

〒104-0031 東京都中央区京橋 1-7-2